

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

| | | | | | | |
|----------------|---|---|--|----------|-------|----------------|
| 事業名 | 一般国道329号 金武バイパス | | 事業区分 | 一般国道 | 事業主体 | 内閣府 沖縄総合事務局 |
| 起終点 | 自：沖縄県金武町字金武中川 至：沖縄県金武町字金武渡慶頭原 | | | 延長 | 5.6km | |
| 事業概要 | <p>国道329号は、名護市を起点とし本島東海岸を南下し那覇市に至る延長約76kmの主要幹線道路である。金武バイパスに並行する現道区間の金武町金武中川から金武渡慶頭原にかけては、急カーブや急勾配など線形不良箇所が複数あり、交通事故の恐れが非常に多い箇所となっている。また、沿道には、基地入口、住宅、商店、公共施設などが密集しており、交差点や車両乗り入れ口も多く、渋滞が発生し、幹線道路としての機能が低下している。金武バイパスは、交通安全の確保、朝夕の交通混雑の解消、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上に大きく寄与する道路である。</p> | | | | | |
| H3年度事業化 | 都市計画決定— | | H6年度用地着手 | H7年度工事着手 | | |
| 全体事業費 | 194億円 | | 事業進捗率 | 73% | 供用済延長 | 3.0km |
| 計画交通量 | 11,800台/日 | | | | | |
| 費用対効果分析結果 | B/C | 総費用 | 総便益 | 基準年 | | |
| | (事業全体) 1.1 (残事業) 1.9 | (残事業)/(事業全体) 49/251億円 事業費：39/230億円 維持管理費：10/21億円 | (残事業)/(事業全体) 92/278億円 走行時間短縮便益：80/255億円 走行経費減少便益 8.1/14億円 交通事故減少便益：4.1/8.6億円 | 平成27年 | | |
| 感度分析の結果 | <p>(事業全体) 交通量変動 B/C = 0.9~1.2 (交通量±10%) (残事業) B/C = 1.7~1.9 (交通量±10%) 事業費変動 B/C = 1.1~1.1 (事業費±10%) B/C = 1.7~2.0 (事業費±10%) 事業期間変動 B/C = 1.1~1.1 (事業期間±20%) B/C = 1.8~2.0 (事業期間±20%)</p> | | | | | |
| 事業の効果等 | <p>①円滑なモビリティの確保 ・損失時間の削減が見込まれる。 ・現道の路線バスの利便性向上が期待される。</p> <p>②物流の効率化の支援 ・重要港湾（那覇新港）へのアクセス向上が見込まれる。</p> <p>③国土・地域ネットワークの構築 ・中部及び北部地域の中心都市（沖縄市・名護市）へのアクセス向上が見込まれる。</p> <p>④個性ある地域の形成 ・高速道路（金武IC）からネイチャーみらい館へのアクセス向上が見込まれる。</p> <p>⑤地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる。</p> <p>⑥生活環境の改善・保全 ・NOX排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。</p> | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | <p>【沖縄県知事】 金武バイパスは、ハシゴ道路ネットワークを形成する主要な幹線道路であり、交通安全の確保、地域交流の促進等に大きく寄与する重要な幹線道路と認識している。 平成24年7月の一部区間開通により、市街地を通過する交通量の減少等の整備効果が発現されているものの、依然として渋滞箇所が残っていることなどから、早期の全線開通が必要である。 このため、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。</p> | | | | | |
| 事業評価監視委員会の意見 | <p>このため、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。</p> | | | | | |

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・現道区間沿線は、住宅が密集しており、交差点や車両出入口が多いため、渋滞が発生している。
- ・ギンバル訓練場跡地周辺の整備が進み、新たな拠点が形成された。また、部分開通後、周辺施設（ネイチャーみらい館）の利用客数は年々増加している。
- ・平成8年3月、平成23年3月30日、平成24年7月27日に金武バイパスが部分開通（延長3.0km）。更なる観光交通の増加が想定される。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・平成3年度に事業化、用地進捗率96%、事業進捗率73%（平成27年3月末時点）。
- ・平成7年度：金武中川地内 延長0.8km 部分開通
- ・平成22年度：金武島兼原～金武浜田原間 延長1.2km 部分開通
- ・平成24年度：金武浜田原～金武渡慶頭原間 延長1.0km 部分開通
- ・平成30年度：金武町村金武源原～金武島兼原 延長1.7km 開通（予定）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・平成8年3月に金武中川地内、平成23年3月30日に金武島兼原～金武浜田原間、平成24年7月27日に金武浜田原～金武渡慶頭原間が部分開通し、部分開通の一定の効果も発揮されている。今後は全線開通に向けて、鋭意事業の進捗を図る。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新技術・新工法の採用など、コスト縮減に努めながら事業を推進。

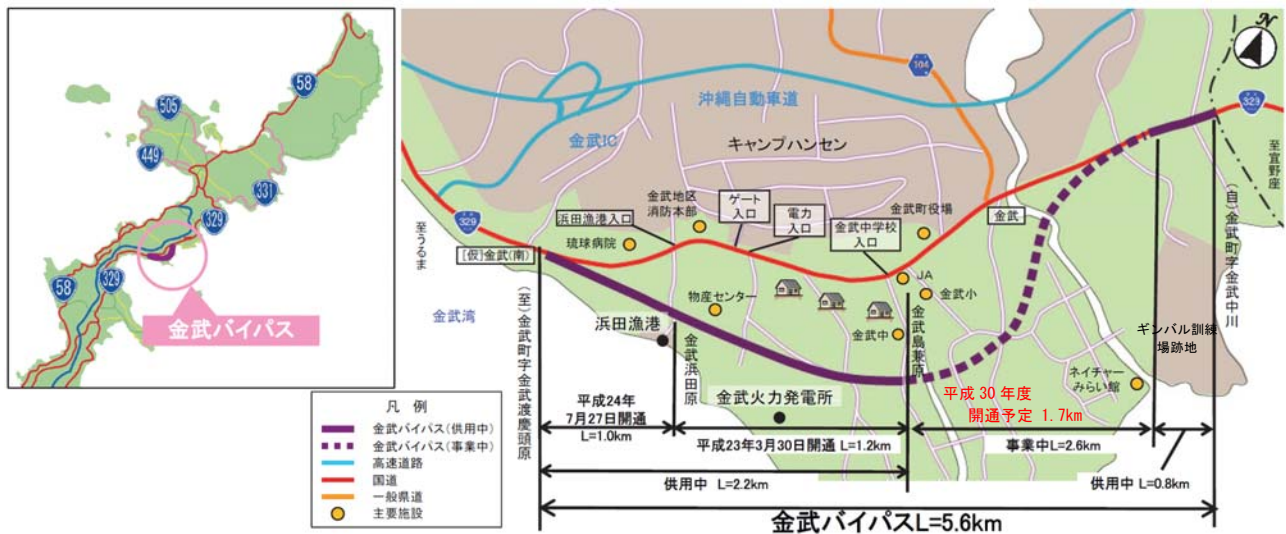
対応方針（原案）

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。